

紋別市における景気動向調査報告書

＜平成 16 年度 第 2 四半期＞

紋別商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 平成 16 年 10 月 1 日
- (2)調査対象期間 平成 16 年 7 月～9 月期の実績および平成 16 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会の 5 業種 150 社を対象に、郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	20 社	66.7%
水産業部会	30 社	21 社	70.0%
機械工業部会	30 社	21 社	70.0%
建設業部会	30 社	20 社	66.7%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	22 社	73.3%
合 計	150 社	104 件	69.3%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で、好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す。

II. 概 況

1. 全体の動き

本年度から始めた紋別市景気動向調査の第 2 四半期（7～9 月）における業況は、前年同期と比較し「好転・やや好転 企業」13.5%、「悪化・やや悪化 企業」64.4%、「好転」から「悪化」を差し引いた D・I 値は▲50.9 となっている。

今回の業況を部会別に見ると、商業・食品業部会 D・I 値▲85.0、水産業部会 D・I 値▲19.1、機械工業部会 D・I 値▲33.3、建設業部会 D・I 値▲45.0、観光サービス業・諸業部会 D・I 値▲72.7 になっており、商業・食品業部会と観光サービス業・諸業部会の数値が際だって高く、厳しい状況にあることがうかがえる。

前期と比較すると全体で 5.7 ポイントの減少となり、なかでも商業・食品業部会では 12.8 ポイント、観光サービス業・諸業部会は 10.8 ポイントの大幅な減少となっている。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転・やや好転企業」11.7%、「悪化・やや悪化企業」57.3%、D・I値▲45.6となり、厳しいながらも前期よりもわずかであるが好転するという見通しが増えている。

2. 業況判断

		今回調査	前回調査	前年同期
業況判断 D・I	今期実績	▲50.9	▲45.2	
	来期見通し	▲45.6	▲47.1	

第2四半期（7～9月）における業況判断D・Iは、全体で▲50.9となっている。業種別にみると、商業・食品業部会で▲85.0、観光サービス業・諸業部会で▲72.7となり、非常に厳しい状況がうかがえる。

一方、基幹産業である水産業部会がマイナスながらも▲19.1と比較的安定しており、さらに機械工業部会も前期より8.8ポイント向上している。

来期については、全体で今期に比べ5.3ポイント向上する見通しとなっている。

3. 売上状況

		今回調査	前回調査	前年同期
売上 D・I	今期実績	▲53.4	▲51.0	
	来期見通し	▲48.6	▲53.8	

今期の売上D・Iは、全体で▲53.4となっている。業種別にみると、商業・食品業部会で▲85.0となり、業況判断D・Iと並び非常に厳しい状況がうかがえる。

来期については、年末商戦ということもあり、マイナスながらも全体で今期に比べ4.8ポイント向上する見通しとなっている。

4. 資金繰り見通し

		今回調査	前回調査	前年同期
資金繰り D・I	今期実績	▲33.6	▲39.4	
	来期見通し	▲40.7	▲38.5	

今期の資金繰りD・Iは、全体で▲33.6となっている。業種別にみると、商業・食品業で▲85.0と非常に厳しいなか、水産業は4.8とプラスとなっているほか、機械工業部会で▲14.3、建設部会でも▲15.0と比較的堅調な数値を示している。

5. 設備投資の実施

今期実施	2.9%
来期実施予定	0.0%
時期未定だが実施予定	19.6%
実施予定なし	77.5%

6. 経営上の問題点（複数回答あり）

	今回調査		前回調査	
第1位	売上の不振	68ポイント	売上の不振	66ポイント
第2位	得意先（客足）減少	50ポイント	得意先（客足）減少	48ポイント
第3位	同業者間の競争	38ポイント	同業者間の競争	40ポイント

前期同様「経営上の問題点」に関する回答では、販売（金額・客数）の不振と、それによる競争の激化を訴える声が多数を占めた。

7. 業種別D・Iについて

		全体	商業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス・諸業
							
業況判断 D・I	今期実績	▲50.9	▲85.0	▲19.1	▲33.3	▲45.0	▲72.7
	来期見通し	▲45.6	▲55.0	▲19.1	▲35.0	▲60.0	▲59.1
売上 D・I	今期実績	▲53.4	▲85.0	▲28.6	▲33.4	▲50.0	▲71.5
	来期見通し	▲48.6	▲55.0	▲19.0	▲40.0	▲65.0	▲63.7
在庫 D・I	今期実績	▲5.1	▲10.5	0.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲48.1	▲65.0	▲14.3	▲42.8	▲55.0	▲63.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲33.6	▲85.0	4.8	▲14.3	▲15.0	▲59.1
	来期見通し	▲40.7	▲55.0	▲14.3	▲45.0	▲40.0	▲50.0

8. 業種別経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
商業・食品業	売上の不振	得意先（客足）減少	同業者間の競争	人件費増	資金調達困難
水産業	諸経費増大	特に問題なし	人件費増	売上の不振	同業者間の競争
機械工業	売上の不振	得意先（客足）減少	同業者間の競争	資金調達困難	得意先減少 人件費増
建設業	同業者間の競争	売上の不振	諸経費増大	得意先（客足）減少	特に問題なし
観光サービス・諸業	売上の不振	得意先（客足）減少	同業者間の競争	諸経費増大	人材不足

【 部 会 別 の 動 き 】

1) 商業・食品業 部 会	売 上 高	前年比で「増加企業」5.0%、「減少企業」90.0%、D・I 値▲85.0 と、非常に厳しい状況となっている。
	採 算	前年比で「増加企業」5.0%、「悪化企業」70.0%、D・I 値▲65.0 となっている。
	来期見通し	業況 D・I 値▲55.0、売上高 D・I 値▲55.0、資金繰り D・I 値▲55.0 となっており、全ての数値で今期より改善されるとの見通しであるが、以前厳しい見通しとなっている。
2) 水産業部会	売 上 高	前年比で「増加企業」19.0%、「減少企業」47.6%、D・I 値▲28.6 と、他の部会と比較するとマイナスながらも小幅となっている。
	採 算	前年比で「好転企業」23.8%、「悪化企業」38.1%、D・I 値▲14.3 と、前期よりも 21.7 ポイント改善した。
	来期見通し	業況 D・I 値▲19.1、売上高 D・I 値▲19.1、資金繰り D・I 値▲14.3 となった。当期プラスであった資金繰り D・I がマイナスに転じる見込みであり、年末の資金繰りの検討が必要である。
3) 機械工業部会	売 上 高	前年比で「増加企業」19.0%、「減少企業」52.4%、D・I 値▲33.4 と、厳しい数値ながら前期と比較し 14.0 ポイント改善している。
	採 算	前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」57.1%、D・I 値▲42.8 と、前期同様依然厳しい状況である。
	来期見通し	業況 D・I 値▲35.0、売上高 D・I 値▲40.0、資金繰り D・I 値▲45.0 となっており、各値とも今期より若干悪化するとの見通しになっている。
4) 建設業部会	完成工事高	前年比で「増加企業」15.0%、「減少企業」65.0%、D・I 値▲50.0 と、前期よりも若干ではあるが数値を落とした。
	採 算	前年比で「好転企業」10.0%、「悪化企業」65.0%、D・I 値▲55.0 と、前期と比較し 7.4 ポイントの悪化を示している。
	来期見通し	業況 D・I 値▲60.0、売上高 D・I 値▲65.0、資金繰り D・I 値▲40.0 となっており、各値とも今期よりも悪化する厳しい見通しになっている。
5) 観光サービス業 ・諸業 部会	売 上 高	前年比で「増加企業」9.5%、「減少企業」81.0%、D・I 値▲71.5%と、商業・食品業部会と並んで非常に厳しい状況となっている。
	採 算	前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」72.7%、D・I 値▲63.6 と、前期と比較しわずかに悪化している。
	来期見通し	業況 D・I 値▲59.1、売上高 D・I 値▲63.7、資金繰り D・I 値▲50.0 となっており、各値とも依然回復の気配は見られず、厳しい見通しになっている。

III. 概 況

■商業・食品業部会

- ・中心商店街の空洞化。路面店・専門店の特色を生かした店舗で存在感をアピールしたい。
- ・特定不況業種に指定されている酒屋ですが、卸売価格（仕入価格）の大店舗・定量売上店との格差がひどすぎると思いつつ、頑張っています。
- ・①CITY ができたため、②落石町 2 丁目道路工事の為春から通行止め、③民間葬儀場ができたため、以上 3 点のため前年より 10%以上の売上減は確実となりました。
- ・大型店進出により、客足が減りました。

■水産業部会

- ・外交問題の見通し不明
- ・すり身業界～スケソウダラ原料の水揚げ不振、及びスケソウダラブランドの輸出の増加にてすり身原料の不足感あり。ホッケ水揚げ増加により、すり身生産比率はホッケすり身「2」に対しスケソウすり身が「1」の比率になりつつある。
- ・原料不足
- ・最大のポイントは原料不足。昨年の半分以下
- ・ロシア産のカニ類が何年捕獲できるか不安
- ・少子化現象であることは十分に予測できたはずなのに、市では多額の助成を北広島の道都大学に送ったとか。経営者だけが太るのは許せない。近年、就労目的で多くの中国人が来日している。日本の若者も負けずに努力すべき。フリーターなど仕事そのものを拒否するものが多い。行政も、生活保護者に厳しく対応する様に。

■機械・工業部会

- ・利用が少なくなった事
- ・①取引先水産加工場の原魚不足の為、原魚確保の研究。 ②都市間の資金・営業・技術競争が益々激化しており、全体的な研究が急務。③廃業等が年々増え、街全体の活性化を図る強力な研究チーム発足、外部からの人材導入も視野に入れて早急に。
- ・金融機関の貸し剥がしが見られる
- ・仕入先等

■建設業部会

- ・公共工事の減少に加え、民間の設備投資も今一步進まず、全体に受注額が減少している。それに伴い、同業他社との競争が激化し、価格が下がっている。市町村合併や道州制の導入による受注増を強く望む。
- ・全体の仕事の量が少なくなっているのに設計単価の下落等が重なり、当社も人件費の圧縮を行わなければ利益の確保が難しい。
- ・公共事業の減少
- ・工事代金完成払いが多い

■観光・サービス業部会

- ・来年からの大学生（アルバイト）の人材不足をどう補うか不安。
- ・今後、道都大学撤退による客足減少に不安があります。
- ・大手チェーン店の進出
- ・人口減少